

(11) 15

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2002-262319

(43)Date of publication of application : 13.09.2002

(51)Int.Cl.

H04Q 3/52

H04B 10/02

H04J 14/00

H04J 14/02

(21)Application number : 2001-057191

(71)Applicant : NIPPON TELEGR & TELEPH CORP
<NTT>

(22)Date of filing : 01.03.2001

(72)Inventor : IMAYADO WATARU
YAMAWAKI JUN
TAKADA ATSUSHI

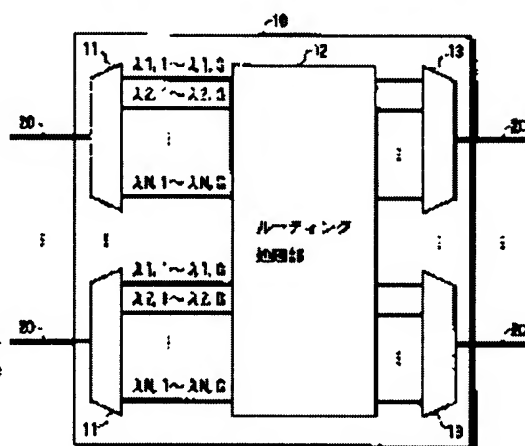
(54) OPTICAL COMMUNICATION NETWORK AND OPTICAL PATH CROSS CONNECTOR

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide an optical communication network that enhances routing processing capability so as to attain a high capacity while suppressing the increase in the entire cost with a configuration that a wavelength path sent through a wavelength multiple transmission link is subjected to routing processing on the basis of its wavelength and to provide an optical path cross connector that conducts the routing processing in the optical communication network.

SOLUTION: In the optical communication network provided with a plurality of the optical path cross connectors and the wavelength multiple transmission link interconnecting them where a wavelength path led to the wavelength multiple transmission link is subjected to the routing processing by the optical path cross connector on the basis of its wavelength, each optical path cross connector is configured such that the wavelength paths of the link are divided into wavelength group of N-sets (N is an integer of 2 or over) consisting of G-sets each (G is an integer of 2 or over) of the wavelength paths of the wavelength multiple transmission link, and applies the routing processing in the unit of the wavelength group paths.

本発明の光バスクロスコネクタ装置の基本構成



(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号
特開2002-262319
(P2002-262319A)

(43) 公開日 平成14年9月13日 (2002.9.13)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テーマコード [*] (参考)
H 0 4 Q 3/52		H 0 4 Q 3/52	C 5 K 0 0 2
H 0 4 B 10/02		H 0 4 B 9/00	U 5 K 0 6 9
H 0 4 J 14/00			E
14/02			

審査請求 未請求 請求項の数16 O L (全 14 頁)

(21) 出願番号 特願2001-57191(P2001-57191)
(22) 出願日 平成13年3月1日 (2001.3.1)

(71) 出願人 000004226
日本電信電話株式会社
東京都千代田区大手町二丁目3番1号
(72) 発明者 今宿 互
東京都千代田区大手町二丁目3番1号 日
本電信電話株式会社内
(72) 発明者 山浦 純
東京都千代田区大手町二丁目3番1号 日
本電信電話株式会社内
(74) 代理人 100072718
弁理士 古谷 史旺

最終頁に続く

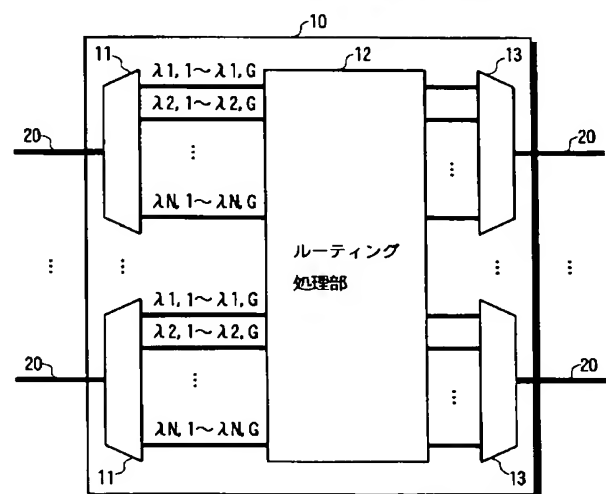
(54) 【発明の名称】 光通信網および光バスクロスコネクタ装置

(57) 【要約】

【課題】 波長多重伝送リンクを伝送される波長パスがその波長に基づいてルーティング処理される構成において、ルーティング処理能力を高め、全体のコスト増大を抑えながら大容量化を可能とする光通信網、およびその光通信網でルーティング処理を行う光バスクロスコネクタ装置を実現する。

【解決手段】 複数の光バスクロスコネクタ装置とその間を接続する波長多重伝送リンクを備え、波長多重伝送リンクを伝送される波長パスが光バスクロスコネクタ装置でその波長に基づいてルーティング処理される光通信網において、光バスクロスコネクタ装置は、波長多重伝送リンクの波長パスをG本 (Gは2以上の整数) ずつN個 (Nは2以上の整数) の波長群パスに分割し、その波長群パスを単位としてルーティング処理を行う構成である。

本発明の光バスクロスコネクタ装置の基本構成



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 複数の光パスクロスコネク装置とその間を接続する波長多重伝送リンクを備え、前記波長多重伝送リンクを伝送される波長パスが前記光パスクロスコネク装置でその波長に基づいてルーティング処理される光通信網において、

前記光パスクロスコネク装置は、前記波長多重伝送リンクの波長パスを G 本 (G は 2 以上の整数) ずつ N 個 (N は 2 以上の整数) の波長群パスに分割し、その波長群パスを単位としてルーティング処理を行う構成であることを特徴とする光通信網。

【請求項 2】 請求項 1 に記載の光通信網をサブ領域 1 ～ z (z は 2 以上の整数) に分割し、前記各サブ領域ごとに、ルーティング処理される波長群パスの数 N_1, N_2, \dots, N_z およびそれぞれの波長群パスを構成する波長パスの数 G_1, G_2, \dots, G_z と、各サブ領域間でルーティング処理される波長群パスの数 N_0 およびその波長群パスを構成する波長パスの数 G_0 が互いに独立に設定される ($N_0 \sim N_z$ は 2 以上の整数、 $G_0 \sim G_z$ は 2 以上の整数) ことを特徴とする光通信網。

【請求項 3】 請求項 1 または請求項 2 に記載の光通信網において、前記 N ($N_0 \sim N_z$) 個の波長群パスを構成するそれぞれ G ($G_0 \sim G_z$) 本の波長パスの波長を $\lambda_{1,1} \sim \lambda_{1,G}, \lambda_{2,1} \sim \lambda_{2,G}, \dots, \lambda_{N,1} \sim \lambda_{N,G}$ としたときに、 $[\lambda_{1,1} \sim \lambda_{1,G}], [\lambda_{2,1} \sim \lambda_{2,G}], \dots, [\lambda_{N,1} \sim \lambda_{N,G}]$ がそれぞれ波長軸上で連続的に配置されることを特徴とする光通信網。

【請求項 4】 請求項 1 または請求項 2 に記載の光通信網において、前記 N ($N_0 \sim N_z$) 個の波長群パスを構成するそれぞれ G ($G_0 \sim G_z$) 本の波長パスの波長を $\lambda_{1,1} \sim \lambda_{1,G}, \lambda_{2,1} \sim \lambda_{2,G}, \dots, \lambda_{N,1} \sim \lambda_{N,G}$ としたときに、 $[\lambda_{1,1} \sim \lambda_{1,G}], [\lambda_{2,1} \sim \lambda_{2,G}], \dots, [\lambda_{N,1} \sim \lambda_{N,G}]$ がそれぞれ波長軸上で等しい波長間隔に配置され、かつ $[\lambda_{1,1} \sim \lambda_{N,1}], [\lambda_{1,2} \sim \lambda_{N,2}], \dots, [\lambda_{1,G} \sim \lambda_{N,G}]$ がそれぞれ波長軸上で連続的に配置されることを特徴とする光通信網。

【請求項 5】 請求項 1 または請求項 2 に記載の光通信網において、前記 N ($N_0 \sim N_z$) 個の波長群パスを構成するそれぞれ G ($G_0 \sim G_z$) 本の波長パスは、通信需要に応じてそれぞれ $1 \sim G$ ($1 \sim G_0, 1 \sim G_1, 1 \sim G_2, \dots, 1 \sim G_z$) 本の範囲で可変設定されることを特徴とする光通信網。

【請求項 6】 請求項 5 に記載の光通信網において、前記 N ($N_0 \sim N_z$) 個の波長群パスを構成するそれぞれ $1 \sim G$ ($1 \sim G_0, 1 \sim G_1, 1 \sim G_2, \dots, 1 \sim G_z$) 本の波長パスの波長を、 $\lambda_{1,1} \sim \lambda_{1,g_1}, \lambda_{2,1} \sim \lambda_{2,g_2}, \dots, \lambda_{N,1} \sim \lambda_{N,g_n}$ としたときに ($g_1 \sim g_n$ は $1 \sim G$ ($1 \sim G_0, 1 \sim G_1, 1 \sim G_2, \dots, 1 \sim G_z$) の整数)、

$[\lambda_{1,1} \sim \lambda_{1,g_1}], [\lambda_{2,1} \sim \lambda_{2,g_2}], \dots, [\lambda_{N,1} \sim \lambda_{N,g_n}]$ がそれぞれ波長軸上で連続的に配置されることを特徴とする光通信網。

【請求項 7】 請求項 1 または請求項 2 に記載の光通信網において、前記波長多重伝送リンクを伝送される光信号の監視単位は、前記ルーティング処理の単位である波長群パスであることを特徴とする光通信網。

【請求項 8】 複数の波長多重伝送リンクを伝送される波長パスを入力し、その波長に基づいてルーティング処理し、対応する波長多重伝送リンクに出力する光パスクロスコネク装置において、

前記各波長多重伝送リンクの波長パスを入力し、それぞれ G 本 (G は 2 以上の整数) ずつ N 個 (N は 2 以上の整数) の波長群パスに分離する複数の分波器と、前記各波長群パスを単位としてルーティング処理するルーティング処理手段と、

前記ルーティング処理手段でルーティングされた各波長群パスを出力する波長多重伝送リンクごとに合波する複数の合波器とを備えたことを特徴とする光パスクロスコネク装置。

【請求項 9】 請求項 8 に記載の光パスクロスコネク装置において、前記複数の分波器、前記ルーティング処理手段、前記複数の合波器で構成される光パスクロスコネク装置処理部を複数備えて階層化し、階層間で一の分波器と一の合波器を順次接続し、各階層ごとに残りの分波器および合波器にそれぞれ前記波長多重伝送リンクを接続する構成であることを特徴とする光パスクロスコネク装置。

【請求項 10】 請求項 9 に記載の光パスクロスコネク装置において、前記各階層の光パスクロスコネク装置処理部に接続する波長多重伝送リンク数、波長群パス数、波長群パスを構成する波長パスは、それぞれ独立に設定される構成であることを特徴とする光パスクロスコネク装置。

【請求項 11】 請求項 8 または請求項 9 に記載の光パスクロスコネク装置において、

前記ルーティング処理手段は、前記波長群パスを構成する複数の波長パスを波長変換する波長変換器と、波長変換された波長群パスをルーティングする光マトリクススイッチとを備えたことを特徴とする光パスクロスコネク装置。

【請求項 12】 請求項 11 に記載の光パスクロスコネク装置において、波長変換器は、前記波長群パスを構成する複数の波長パスを一括して波長変換する光パラメトリック波長変換器であることを特徴とする光パスクロスコネク装置。

【請求項 13】 請求項 12 に記載の光パスクロスコネク装置において、

前記光パラメトリック波長変換器は、入力された波長パ

スおよび雑音光を除去する光フィルタを含むことを特徴とする光パスクロスコネクタ装置。

【請求項 14】 請求項 12 に記載の光パスクロスコネクタ装置において、前記光パラメトリック波長変換器は、2 入力 2 出力の第 1 の光合分波器の 2 つの出力ポートと、2 入力 2 出力の第 2 の光合分波器の 2 つの入力ポートとをそれぞれ接続する 2 つの光経路に、それぞれ光分散媒質および 2 次の光非線形媒質を挿入した非線形マッハツェンダ干渉計を備え、

前記第 1 の光合分波器と前記第 2 の光合分波器との間の一方の光経路には第 1 の光分散媒質の次に第 1 の 2 次の光非線形媒質を挿入し、他方の光経路には第 2 の 2 次の光非線形媒質の次に第 2 の光分散媒質を挿入し、

前記第 1 の光合分波器の一方の入力ポートから前記波長群パスを構成する信号光および波長変換光の元となる励起光の合波光を入力し、前記第 2 の光合分波器の一方の出力ポートから信号光および励起光を出力し、他方の出力ポートから入力された波長群パスに対する波長変換された波長群パスを出力する構成であることを特徴とする光パスクロスコネクタ装置。

【請求項 15】 請求項 8 または請求項 9 に記載の光パスクロスコネクタ装置において、前記分波器および前記合波器は、周期的な透過波長特性を有するアレイ導波路回折格子型合分波器 (AWG) であることを特徴とする光パスクロスコネクタ装置。

【請求項 16】 請求項 8 または請求項 9 に記載の光パスクロスコネクタ装置において、前記分波器および前記合波器は、周期的な透過波長特性を有するアレイ導波路回折格子型合分波器 (AWG) を 2 段構成で用い、その間に分波された各波長パスを選択的に透過または遮断する光ゲートスイッチを備えた構成であることを特徴とする光パスクロスコネクタ装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、波長多重伝送リンクを伝送される波長パスがその波長に基づいてルーティング処理される光通信網、およびその光通信網でルーティング処理を行う光パスクロスコネクタ装置に関する。

【0002】

【従来の技術】インターネット等のデータ通信トラヒックの増大により、現状では Tbit/s クラス、近い将来には 10~100 Tbit/s 以上のスループットを有するルーティング処理装置の導入が求められている。現状のルーティング処理装置は、大容量光ファイバ伝送路を介して転送されてきた情報を入力段で電気信号に変換し、転送情報のフレームごとに転送先情報を読み出し、各転送先に対応したアドレスを格納しているルーティングテーブルを参照して経路制御を行い、その経路情報をもとにフォワーディング処理を行っている。そして、バッファリン

グ動作により競合制御した上で、電気信号を光信号に変換して次段の光ファイバ伝送路に送出している。

【0003】このような手順に従って処理する従来のルーティング処理装置では、転送情報のフレーム構造の変更が困難であり、ユーザのニーズに対応して多様なサービスを提供することが本質的に難しい。

【0004】さらに、処理速度の高速化を図るには、電気的な処理を実行する LSI 回路の高速化と並列度の増大が求められる。特に、最近のデータ通信トラヒックの増大は、LSI 回路の高速化の進捗状況を凌駕する勢いで進んでおり、そのため並列度の増大すなわちルーティング処理装置のスイッチ方路の増大が避けられなくなっている。しかし、並列度の増大は、実装等のハードウェアの課題のみならず、転送処理効率の低下も招くので、期待されるほどの効果を得にくい状況にある。

【0005】このような問題を解決する手段として、転送される光信号の波長をルーティング情報として利用する光パスクロスコネクタ (OPXC) がある。この光パスクロスコネクタでは、入力光信号は波長チャネル単位で空間的に分離し、各波長チャネルごとにスイッチング処理を行う。すなわち、光ファイバ伝送路を介して伝送されてきた光信号を電気信号に変換することなく処理するので、装置規模の削減と大容量化に対して有利になっている。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】ところで、光パスクロスコネクタ装置には、波長チャネル数に比例した数の波長変換素子と、波長チャネル数の二乗に比例した規模の光マトリクススイッチが要求される。また、光マトリクススイッチの大規模化では、スイッチ製作技術の均一性を高めるのと同時に、低損失化が要求される。しかし、現状では、光スイッチの単価が電気スイッチよりも大幅に高価であり、光マトリクススイッチの規模増大は光パスクロスコネクタ装置のコストメトリックを損なう問題がある。

【0007】本発明は、波長多重伝送リンクを伝送される波長パスがその波長に基づいてルーティング処理される構成において、ルーティング処理能力を高め、全体のコスト増大を抑えながら大容量化を可能とする光通信網、およびその光通信網でルーティング処理を行う光パスクロスコネクタ装置を提供することを目的とする。

【0008】

【課題を解決するための手段】請求項 1 に記載の発明は、複数の光パスクロスコネクタ装置とその間を接続する波長多重伝送リンクを備え、波長多重伝送リンクを伝送される波長パスが光パスクロスコネクタ装置でその波長に基づいてルーティング処理される光通信網において、光パスクロスコネクタ装置は、波長多重伝送リンクの波長パスを G 本 (G は 2 以上の整数) ずつ N 個 (N は 2 以上の整数) の波長群パスに分割し、その波長群パス

を単位としてルーティング処理を行う構成である。

【0009】請求項2に記載の発明は、請求項1に記載の光通信網をサブ領域1～z（zは2以上の整数）に分割し、各サブ領域ごとに、ルーティング処理される波長群パスの数 N_1, N_2, \dots, N_z およびそれぞれの波長群パスを構成する波長パスの数 G_1, G_2, \dots, G_z と、各サブ領域間でルーティング処理される波長群パスの数 N_0 およびその波長群パスを構成する波長パスの数 G_0 が互いに独立に設定される（ $N_0 \sim N_z$ は2以上の整数、 $G_0 \sim G_z$ は2以上の整数）。これにより、各サブ領域ごとのトラヒック需要に応じた光通信網を設計できるとともに、波長多重伝送リンクおよび光パスクロスコネクタ装置内の有限な光周波数資源の利用効率を高めることができる。

【0010】請求項3に記載の発明は、請求項1または請求項2に記載の光通信網において、 N （ $N_0 \sim N_z$ ）個の波長群パスを構成するそれぞれ G （ $G_0 \sim G_z$ ）本の波長パスの波長を $\lambda_{1,1} \sim \lambda_{1,G}, \lambda_{2,1} \sim \lambda_{2,G}, \dots, \lambda_{N,1} \sim \lambda_{N,G}$ としたときに、 $[\lambda_{1,1} \sim \lambda_{1,G}]$ 、 $[\lambda_{2,1} \sim \lambda_{2,G}]$ 、 \dots 、 $[\lambda_{N,1} \sim \lambda_{N,G}]$ がそれぞれ波長軸上で連続的に配置される。

【0011】請求項4に記載の発明は、請求項1または請求項2に記載の光通信網において、 N （ $N_0 \sim N_z$ ）個の波長群パスを構成するそれぞれ G （ $G_0 \sim G_z$ ）本の波長パスの波長を $\lambda_{1,1} \sim \lambda_{1,G}, \lambda_{2,1} \sim \lambda_{2,G}, \dots, \lambda_{N,1} \sim \lambda_{N,G}$ としたときに、 $[\lambda_{1,1} \sim \lambda_{1,G}]$ 、 $[\lambda_{2,1} \sim \lambda_{2,G}]$ 、 \dots 、 $[\lambda_{N,1} \sim \lambda_{N,G}]$ がそれぞれ波長軸上で等しい波長間隔に配置され、かつ $[\lambda_{1,1} \sim \lambda_{N,1}]$ 、 $[\lambda_{1,2} \sim \lambda_{N,2}]$ 、 \dots 、 $[\lambda_{1,G} \sim \lambda_{N,G}]$ がそれぞれ波長軸上で連続的に配置される。

【0012】請求項5に記載の発明は、請求項1または請求項2に記載の光通信網において、 N （ $N_0 \sim N_z$ ）個の波長群パスを構成するそれぞれ G （ $G_0 \sim G_z$ ）本の波長パスは、通信需要に応じてそれぞれ $1 \sim G$ （ $1 \sim G_0, 1 \sim G_1, 1 \sim G_2, \dots, 1 \sim G_z$ ）本の範囲で可変設定される。これにより、各対地間の通信需要に応じて柔軟に通信帯域幅を融通できる。その結果、有限な光周波数資源の利用効率を高めることができる。

【0013】請求項6に記載の発明は、請求項5に記載の光通信網において、 N （ $N_0 \sim N_z$ ）個の波長群パスを構成するそれぞれ $1 \sim G$ （ $1 \sim G_0, 1 \sim G_1, 1 \sim G_2, \dots, 1 \sim G_z$ ）本の波長パスの波長を、 $\lambda_{1,1} \sim \lambda_{1,g_1}, \lambda_{2,1} \sim \lambda_{2,g_2}, \dots, \lambda_{N,1} \sim \lambda_{N,g_n}$ としたときに（ $g_1 \sim g_n$ は $1 \sim G$ （ $1 \sim G_0, 1 \sim G_1, 1 \sim G_2, \dots, 1 \sim G_z$ ）の整数）、 $[\lambda_{1,1} \sim \lambda_{1,g_1}]$ 、 $[\lambda_{2,1} \sim \lambda_{2,g_2}]$ 、 \dots 、 $[\lambda_{N,1} \sim \lambda_{N,g_n}]$ がそれぞれ波長軸上で連続的に配置される。これにより、ルーティング処理単位である波長群パスを構成する複数の波長パスを一括して波長変換するなどの処理が容易になり、かつ合分波器の構成も容易になる。

【0014】請求項7に記載の発明は、請求項1または請求項2に記載の光通信網において、波長多重伝送リンクを伝送される光信号の監視単位は、ルーティング処理の単位である波長群パスとする。これにより、ルーティング処理単位と監視単位が同一となり、ネットワークの障害検知と再構成のオペレーションを簡略化することができる。さらに、ルーティング処理単位に監視することにより、各波長パス単位で監視を行う場合に比べて監視装置の規模削減が可能となる。

10 【0015】請求項8に記載の発明は、複数の波長多重伝送リンクを伝送される波長パスを入力し、その波長に基づいてルーティング処理し、対応する波長多重伝送リンクに出力する光パスクロスコネクタ装置において、各波長多重伝送リンクの波長パスを入力し、それぞれ G 本（ G は2以上の整数）ずつ N 個（ N は2以上の整数）の波長群パスに分離する複数の分波器と、各波長群パスを単位としてルーティング処理するルーティング処理手段と、ルーティング処理手段でルーティングされた各波長群パスを出力する波長多重伝送リンクごとに合波する複数の合波器とを備えて構成される。

20 【0016】請求項9に記載の発明は、請求項8に記載の光パスクロスコネクタ装置において、複数の分波器、ルーティング処理手段、複数の合波器で構成される光パスクロスコネクタ処理部を複数備えて階層化し、階層間で一の分波器と一の合波器を順次接続し、各階層ごとに残りの分波器および合波器にそれぞれ波長多重伝送リンクを接続する構成である。

【0017】請求項10に記載の発明は、請求項9に記載の光パスクロスコネクタ装置において、各階層の光パスクロスコネクタ処理部に接続する波長多重伝送リンク数、波長群パス数、波長群パスを構成する波長パスは、それぞれ独立に設定される構成である。

【0018】請求項11に記載の発明は、請求項8または請求項9に記載の光パスクロスコネクタ装置において、ルーティング処理手段は、波長群パスを構成する複数の波長パスを波長変換する波長変換器と、波長変換された波長群パスをルーティングする光マトリクススイッチとを備える。

【0019】請求項12に記載の発明は、請求項11に記載の光パスクロスコネクタ装置において、波長変換器は、波長群パスを構成する複数の波長パスを一括して波長変換する光パラメトリック波長変換器である。

【0020】請求項13に記載の発明は、請求項12に記載の光パスクロスコネクタ装置において、光パラメトリック波長変換器は、入力された波長パスおよび雑音光を除去する光フィルタを含む。

【0021】請求項14に記載の発明は、請求項12に記載の光パスクロスコネクタ装置において、光パラメトリック波長変換器は、2入力2出力の第1の光合分波器の2つの出力ポートと、2入力2出力の第2の光合分

波長の 2 つの入力ポートとをそれぞれ接続する 2 つの光経路に、それぞれ光分散媒質および 2 次の光非線形媒質を挿入した非線形マッハツェンダ干渉計を備え、第 1 の光合分波器と第 2 の光合分波器との間の一方の光経路には第 1 の光分散媒質の次に第 1 の 2 次の光非線形媒質を挿入し、他方の光経路には第 2 の 2 次の光非線形媒質の次に第 2 の光分散媒質を挿入し、第 1 の光合分波器の一方の入力ポートから波長群パスを構成する信号光および波長変換光の元となる励起光の合波光を入力し、第 2 の光合分波器の一方の出力ポートから信号光および励起光を出力し、他方の出力ポートから入力された波長群パスに対する波長変換された波長群パスを出力する構成である。

【0022】請求項 15 に記載の発明は、請求項 8 または請求項 9 に記載の光パスクロスコネクタ装置において、分波器および合波器は、周期的な透過波長特性を有するアレイ導波路回折格子型合分波器 (AWG) である。

【0023】請求項 16 に記載の発明は、請求項 8 または請求項 9 に記載の光パスクロスコネクタ装置において、分波器および合波器は、周期的な透過波長特性を有するアレイ導波路回折格子型合分波器 (AWG) を 2 段構成で用い、その間に分波された各波長パスを選択的に透過または遮断する光ゲートスイッチを備えた構成である。

【0024】

【発明の実施の形態】(光パスクロスコネクタ装置の基本構成) 図 1 は、本発明の光パスクロスコネクタ装置の基本構成を示す。図において、光パスクロスコネクタ装置 10 には複数の波長多重伝送リンク 20 が接続される。光パスクロスコネクタ装置 10 は、各波長多重伝送リンク 20 の波長パスを G 本 (G は 2 以上の整数) ずつ N 個 (N は 2 以上の整数) の波長群パスに分離する分波器 11 と、その波長群パスを単位としてルーティング処理を行うルーティング処理部 12 と、各波長多重伝送リンク 20 に出力する波長群パスを合波する合波器 13 により構成される。

【0025】光パスクロスコネクタ装置の従来構成と本発明構成の違いを図 2 に示す。従来構成では波長パス単位でルーティング処理を行っていたために、例えば 16 本の波長パスをルーティングするために 16×16 のルーティング処理部が必要であった。一方、本発明構成では複数の波長パスをグループ化した波長群パス単位でルーティング処理を行うので、4 本の波長パスで波長群パスが構成されるとすると、16 本の波長パスをルーティングするために 4×4 のルーティング処理部で対応することができる。ルーティング処理部 12 は、後述するように波長変換器と光マトリクススイッチで構成されるので、ルーティング処理単位を波長群パスとすることにより、回路規模を大幅に低減することができる。

【0026】ここで、各波長群パスを構成する波長パスの波長を $[\lambda 1, 1 \sim \lambda 1, G]$ 、 $[\lambda 2, 1 \sim \lambda 2, G]$ 、…、 $[\lambda N, 1 \sim \lambda N, G]$ と表す。なお、波長 $\lambda i, j$ の i は属する波長群の番号 $1 \sim N$ を示し、 j は波長番号 $1 \sim G$ を示す。

【0027】図 3 は、波長群パスの波長配置例を示す。図 3 (1) に示す波長配置例では、波長群パス $1 \sim N$ を構成する波長パスの波長 $[\lambda 1, 1 \sim \lambda 1, G]$ 、 $[\lambda 2, 1 \sim \lambda 2, G]$ 、…、 $[\lambda N, 1 \sim \lambda N, G]$ は、それぞれ波長軸上で連続的に配置される。

【0028】図 3 (2) に示す波長配置例では、波長群パス $1 \sim N$ を構成する波長パスの波長 $[\lambda 1, 1 \sim \lambda 1, G]$ 、 $[\lambda 2, 1 \sim \lambda 2, G]$ 、…、 $[\lambda N, 1 \sim \lambda N, G]$ は、それぞれ波長軸上で等しい波長間隔に配置され、かつ $[\lambda 1, 1 \sim \lambda N, 1]$ 、 $[\lambda 1, 2 \sim \lambda N, 2]$ 、…、 $[\lambda 1, G \sim \lambda N, G]$ がそれぞれ波長軸上で連続的に配置される。このような波長群パスの合分波を行う分波器 11 および合波器 13 としては、例えば周期的な合分波特性を有するアレイ導波路回折格子型光合分波器 (AWG) を用いることができる。

【0029】図 3 (3) に示す波長配置例は、各波長群パスを構成する波長パス数が $1 \sim G$ 本の範囲で可変設定される例である。波長群パス $1 \sim N$ を構成する波長パスの波長 $[\lambda 1, 1 \sim \lambda 1, g1]$ 、 $[\lambda 2, 1 \sim \lambda 2, g2]$ 、…、 $[\lambda N, 1 \sim \lambda N, gn]$ は、それぞれ波長軸上で連続的に配置される。ただし、 $g1 \sim gn$ は $1 \sim G$ の範囲の整数である。このような波長群パスの合分波を行う分波器 11 および合波器 13 としては、2 つの AWG とオン/オフ動作する光ゲートスイッチを用いて構成することができる。その構成例を図 4 に示す。

【0030】図 4 において、分波器 11 は、波長多重伝送リンク 20 の波長多重信号光を N 分岐する光スターカプラ 111 と、N 分岐された各波長多重信号光を分波する分波器としての AWG 112-1 \sim 112-N と、各 AWG の出力ごとに分波された各波長パスを個別にオン/オフする光ゲートスイッチ群 113-1 \sim 113-N と、各光ゲートスイッチ群から出力される波長パスを合波する合波器としての AWG 114-1 \sim 114-N により構成される。この光ゲートスイッチ群でオンとなる波長パスに応じて、図 3 (3) に示すように各波長群パスを構成する波長パスを可変設定することができる。合波器 13 は、図 4 の配置を逆にした構成により実現できる。

【0031】(光通信網の第 1 の実施形態) 図 5 は、本発明の光通信網の第 1 の実施形態を示す。図において、本実施形態の光通信網は、36 個の光パスクロスコネクタ装置 10 と、それらを接続する 59 本の波長多重伝送リンク 20 から構成され、光パスクロスコネクタ装置 10 で波長群パスを単位してルーティング処理が行われる。

【0032】光通信網の従来構成と本発明構成の違いを

図 6 に示す。従来構成では波長パス単位でルーティング処理を行っていたために、同一の対地（IP ルータ）に転送される複数の波長パスでもそれぞれ個別に扱う必要があった。一方、本発明構成では、波長群パス単位でルーティング処理を行うので、同一の対地（IP ルータ）に転送される複数の波長パスをグループ化し、一括してルーティング処理することができる。

【0033】本発明構成において、例えば、波長多重伝送リンク 20 の波長パス数は 65、各波長パスの光周波数間隔は 50 GHz（波長間隔約 0.4 nm）で波長は 1530~1560 nm の C バンドに配置され、信号速度は 10 Gbit/s および 2.5 Gbit/s とする。ここで、4 本の波長パスで 1 つのルーティング処理単位である波長群パスを構成すると、16 個の波長群パスが構成され、残り 1 つの波長パスが各波長群パス単位の信号品質情報や、光パスクロスコネクタ装置や中継装置などの監視制御情報を有する監視信号チャネルとして用いられる。

【0034】図 7 は、波長多重伝送リンク 20 の構成例を示す。図において、波長多重伝送リンク 20 では、波長多重伝送において問題となる各波長パスの自己位相変調および各波長パス間の四光波混合を抑圧するために、伝送光ファイバの非線形性を抑圧したコア拡大ファイバ 21 と、コア拡大ファイバ 21 の分散および分散スロープを補償した分散補償ファイバ 22 で 1 つの伝送区間を構成し、各伝送区間を光ファイバの損失を補償する光ファイバ増幅器 23 を介して接続した構成である。例えば、波長多重伝送リンク 20 が 3~4 伝送区間で構成され、1 つの伝送区間が 80 km とすれば、240~360 km の間隔で光パスクロスコネクタ装置 10 が配置されることになる。

【0035】なお、光ファイバ増幅器 23 としては、エルビウム添加光ファイバを用いた光増幅器と、伝送光ファイバ自身を光増幅媒体として用いるラマン光増幅手段が用いられる。

【0036】図 8 は、図 5 の光通信網の A 地点に用いられる光パスクロスコネクタ装置 10 の構成例を示す。図において、A 地点の光パスクロスコネクタ装置 10 では、隣接する 4 つの光パスクロスコネクタ装置からの波長多重伝送リンク 20 となる 4 本の光ファイバ 16-1~16-4（16'-1~16'-4）を介してそれぞれ 64 本の波長パスと監視用の 1 本の波長パス（合計 65 本）を収容し、自装置の送受信部 17 からアドドロップ用の光ファイバ 16-5（16'-5）を介して 64 本の波長パスと監視用の 1 本の波長パス（合計 65 本）を収容する。

【0037】各光ファイバ 16-1~16-5 が接続される入力ポートには、波長群パス単位に分離する分波器 11-1~11-5 が接続される。分波器 11-1~11-4 は、光ファイバ 16-1~16-4 から入力する各 64 本の波長パスを 4 本ずつ各 16 個の波長群パスに分離

し、分波器 11-5 は光ファイバ 16-5 から入力する送信用の 64 本の波長パスを 4 本ずつ 16 個の波長群パスに分離する。例えば、分波器 11-1 で分離される各波長群パスの波長パスの波長は、 $[\lambda 1, 1 \sim \lambda 1, 4]$ 、 $[\lambda 2, 1 \sim \lambda 2, 4]$ 、…、 $[\lambda 16, 1 \sim \lambda 16, 4]$ となる。

【0038】分波器 11-1~11-5 でそれぞれ 16 個に分離された合計 80 個の波長群パスは、波長変換器 14 および 80×80 の光マトリクススイッチ 15 から構成されるルーティング処理部 12 に入力され、必要な波長変換およびルーティング処理が行われる。光マトリクススイッチ 15 の出力は、合波器 13-1~13-5 でそれぞれ 16 個の波長群パスごとに合波され、出力ポートから光ファイバ 16'-1~16'-5 に出力される。光ファイバ 16'-1~16'-4 にはそれぞれ 64 本（合計 256 本）の波長パスが出力され、光ファイバ 16'-5 には受信用の 64 本の波長パスが出力される。

【0039】また、分波器 11-1~11-5 で分離される監視信号チャネルの波長パスはコントローラ 18 に入力される。コントローラ 18 は、この監視信号チャネルにより伝送された制御情報に応じて、各波長変換器 14 の変換波長および光マトリクススイッチ 15 の動作を制御する。また、コントローラ 18 は、各波長群パスの新たな制御情報をのせた監視信号チャネルを生成し、合波器 13-1~13-5 に入力して合波する。

【0040】なお、本実施形態に示すルーティング処理部 12 は、波長変換器 14 で各波長群パスを波長変換した後に光マトリクススイッチ 15 に入力する構成をとっているが、各波長群パスを光マトリクススイッチ 15 でスイッチングし、出力される波長群パスを波長変換器 14 でそれぞれ波長変換する構成としてもよい。

【0041】図 9 は、送受信部 17 の構成例を示す。図において、送受信部 17 は、各 IP ルータから出力された電気信号を光信号に変換する電気光変換器（E/O）31-1~31-65 と、各電気信号を転送先に対応した波長の電気光変換器に接続するクロスバスイッチ 32 と、各波長の光信号を合波して光ファイバ 16-5 に出力する合波器 33 と、光ファイバ 16'-5 から入力する光波長多重信号を各波長の光信号に分離する分波器 34 と、各光信号を電気信号に変換する光電気変換器（O/E）35-1~35-65 と、各電気信号を受信先の IP ルータに接続するクロスバスイッチ 36 により構成される。

【0042】図 10 は、光マトリクススイッチ 15 の構成例を示す。図 10 (1) は第 1 の構成例、図 10 (2) は第 2 の構成例を示す。図 10 (1) において、光マトリクススイッチ 15 は、80×80 のメカニカルに動作する反射鏡スイッチ 40 で構成される。この反射鏡スイッチ 40 は、図 8 に示すコントローラ 18 によって制御される。例えば、ポート a の波長群パスをポート b に出力するには、そのマトリクスの交点となる反射鏡スイッチ 40 a

bのみをオン状態とし、その行・列にある反射鏡スイッチをオフ状態に制御する。

【0043】図10(2)において、光マトリクススイッチ15は、波長群パス単位でルーティングする16×5の光スイッチ150-1～150-5とメッシュ配線により実現したものである。80×80の光マトリクススイッチ15を用いる場合には、合波器13-1～13-5で各光ファイバに出力する波長群パスを合波しているが、本構成では16×5の光スイッチ150-1～150-5内で各光ファイバに出力する波長群パスをルーティングおよび合波する構成になっている。すなわち、16×5の光スイッチ150-1～150-5は、1×2光スイッチ151を介して16×5のマトリクス配線を行い、合波器152で各光ファイバに対応に合波する構成である。これにより、合波器13-1～13-5の入力ポート数は16から5に減っている。

【0044】(波長変換器14の構成例)図11は、波長変換器14の第1の構成例を示す。図において、波長変換器14は、入力される波長群パスを4つの波長パスに分離する分波器41と、変換波長に設定される波長可変レーザ光源42-1～42-4と、各波長パスを電気信号に変換し、その電気信号で各波長可変レーザ光源の出力光を変調する波長変換素子43-1～43-4と、各波長変換光を合波して波長群パスとして出力する合波器44により構成される。なお、ここに用いる波長変換素子43としては、高速応答が可能な単一走行フォトキャリアダイオードとE A変調器を集積化したモジュールを用いることができる。

【0045】図12は、波長変換器14の第2の構成例を示す。図において、波長変換器14は、入力される波長群パスを4つの波長パスに分離する分波器41と、変換波長に設定される波長可変レーザ光源42-1～42-4と、各波長パスで各波長可変レーザ光源の出力光を直接変調する波長変換素子45-1～45-4と、各波長変換光を合波して波長群パスとして出力する合波器44により構成される。

【0046】ここに用いる波長変換素子45としては、図12(2)に示すマッハツェンダ干渉計構成の半導体光増幅器46-1、46-2が用いられる。波長可変レーザ光源42から出力される制御光は、一方の光カプラ47-1で2分岐して半導体光増幅器46-1、46-2に入力され、他方の光カプラ47-2で結合して出力される。ここで、信号光(波長パス)を一方の半導体光増幅器46-1に入力すると屈折率が変化し、通過する制御光の位相が変化する。そのため、光カプラ47-2で結合される各制御光の位相が異なり、位相変化が強度変化となって現れる。すなわち、信号光の情報が制御光に乗せられ、信号光の波長から制御光の波長への波長変換となる。このような構成の波長変換素子45は、電気回路および電気素子を含まないので高速動作が可能であ

る。

【0047】なお、この波長変換素子45は、半導体光増幅器のクロスフェイズ変調を用いた構成であり、信号光と波長変換光を異なるポートに分離して出力することができる。一方、半導体光増幅器のクロスゲイン変調を用いた構成とする場合には、波長変換光から信号光や雑音光を分離する光フィルタを用いる。

【0048】図13は、波長変換器14の第3の構成例を示す。本構成の特徴は、波長群パスを各波長パスに分離することなく、波長群パスの各波長パスを一括して波長変換する光パラメトリック波長変換器(参照:特願2000-304936号)を用いたところにある。これにより、光マトリクススイッチ15のみならず、波長変換器14についても波長群パス単位に集約することができる。ここでは、波長変換の対象となる波長群パスを信号光といい、波長変換光のもとになる光を励起光という。

【0049】図において、波長変換器14は、内部の2つの光経路にそれぞれ光分散媒質と2次の光非線形媒質を有する非線形マッハツェンダ干渉計により構成される。ただし、2つの光経路では、光分散媒質と2次の光非線形媒質の順番が逆になる。

【0050】信号光と励起光はWDMカプラ51で合波され、その合波光が光合分波器52の一方の入力ポートから入力され、2つの光経路に分岐される。一方の光経路に分岐された合波光は、最初に光分散媒質53に入力され、次に2次の光非線形媒質54に入力される。他方の光経路に分岐された合波光は、最初に2次の光非線形媒質55に入力され、次に光分散媒質56に入力される。2次の光非線形媒質54、55で発生する波長変換光と、2つの光経路を通過する信号光および励起光は光合分波器57で合波され、一方の出力ポートに信号光および励起光が出力され、他方の出力ポートに波長変換光が出力される。

【0051】図14は、光分散媒質53、56と2次の光非線形媒質54、55の構成例を示す。ここでは、LiNbO₃基板60上に、光分散媒質53、56として非疑似位相整合LiNbO₃導波路61、62と、2次の光非線形媒質54、55として疑似位相整合LiNbO₃導波路63、64とをモノリシックに構成する。疑似位相整合LiNbO₃導波路63、64は、LiNbO₃基板60に製作時の電圧印加により所定の間隔で分極反転領域を形成し、かつチタン(Ti)を拡散させて2本のLiNbO₃導波路を形成する。一方、通常のLiNbO₃導波路では励起光と信号光間で伝搬係数が大きく異なるが、この性質を光分散媒質として利用し、非疑似位相整合LiNbO₃導波路61、62として用いたものである。これにより、光分散媒質と光非線形媒質を集積化することができる。

【0052】（光通信網の第2の実施形態）図15は、本発明の光通信網の第2の実施形態を示す。図において、本実施形態の光通信網は、基幹網71と地域網72-1〜72-4に分離された2階層のネットワーク構造になっている。基幹網71は、16個の光パスクロスコネク装置10と、それらを接続する波長多重伝送リンク20から構成され、波長群パスを単位してルーティング処理が行われる。

【0053】例えば、波長多重伝送リンク20の波長パス数は129、各波長パスの光周波数間隔は50GHz（波長間隔約0.4nm）で波長は1530〜1580nmのCバンドおよびLバンドに配置され、信号速度は10Gbit/sおよび2.5Gbit/sとする。ここで、4本の波長パスで1つのルーティング処理単位である波長群パスを構成すると、32個の波長群パスが構成され、残り1本の波長パスが各波長群パス単位の信号品質情報や、光パスクロスコネク装置や中継装置などの監視制御情報を有する監視信号チャンネルとして用いられる。

【0054】各地域網72-1〜72-4は、それぞれの地域事情に合わせてリング、メッシュ、スター等の多様なネットワークポロジが採用される。ここでは、地域網の各光パスクロスコネク装置に、従来型の波長パス単位でルーティング処理を行うものを用い、波長多重伝送リンク20の波長パス数は32とする。なお、地域網で波長群パス単位のルーティング処理を行う場合も同様である。

【0055】図16は、図15の光通信網のB地点に用いられる光パスクロスコネク装置10の構成例を示す。図において、基幹網71と地域網72-1を接続するB地点の光パスクロスコネク装置10は、光通信網の2階層構成に合わせて基幹網対応部73と地域網対応部74の2階層になっている。

【0056】基幹網対応部73では、隣接する2つの光パスクロスコネク装置から2本の光ファイバ16-1、16-2（16'-1、16'-2）を介してそれぞれ129本の波長パスを収容し、地域網対応部74から光ファイバ16-3（16'-3）を介して最大129本の波長パスを収容する。

【0057】各光ファイバ16-1〜16-3が接続される入力ポートには、波長群パス単位に分離する分波器11-1〜11-3が接続される。分波器11-1、11-2は、光ファイバ16-1、16-2の各128本の波長パスを4本ずつ各32個の波長群パスに分離し、分波器11-3は光ファイバ16-3の最大128本の波長パスを4本ずつ最大32個の波長群パスに分離する。例えば、分波器11-1で分離される各波長群パスの波長パスの波長は、 $[\lambda 1,1 \sim \lambda 1,4]$ 、 $[\lambda 2,1 \sim \lambda 2,4]$ 、…、 $[\lambda 32,1 \sim \lambda 32,4]$ となる。

【0058】分波器11-1〜11-3でそれぞれ32個に分離された合計96個の波長群パスは、波長変換器14

aおよび96×96の光マトリクススイッチ15aから構成されるルーティング処理部12aに inputs され、必要な波長変換およびルーティング処理が行われる。光マトリクススイッチ15aの出力は、合波器13-1〜13-3でそれぞれ32個の波長群パスごとに合波され、出力ポートから光ファイバ16'-1〜16'-3に出力される。光ファイバ16'-1、16'-2にはそれぞれ128本（合計256本）の波長パスが出力され、光ファイバ16'-3には地域網対応部74に対して最大128本の波長パスが出力される。

【0059】また、分波器11-1〜11-3で分離される監視信号チャンネルの波長パスはコントローラ18aに inputs される。コントローラ18aは、この監視信号チャンネルにより伝送された制御情報に応じて、各波長変換器14aの変換波長および光マトリクススイッチ15aの動作を制御する。また、コントローラ18aは、各波長群パスの新たな制御情報をのせた監視信号チャンネルを生成し、合波器13-1〜13-3に inputs して合波する。

【0060】地域網対応部74では、基幹網対応部73から光ファイバ16-3（16'-3）を介して最大128本の波長パスを収容し、隣接する2つの光パスクロスコネク装置から2本の光ファイバ16-5、16-6（16'-5、16'-6）を介してそれぞれ32本の波長パスを収容し、自装置の送受信部17からアドドロップ用の光ファイバ16-7（16'-7）を介して32本の波長パスを収容する。

【0061】光ファイバ16'-3、16-5〜16-7が接続される入力ポートには、波長パス単位に分離する分波器11-4〜11-7が接続される。分波器11-4は、光ファイバ16'-3の最大128本の波長パスを分離し、分波器11-5〜11-7は、光ファイバ16-5〜16-7の各32本の波長パスを分離する。

【0062】分波器11-4で最大128本に分離された波長パスと分波器11-5〜11-7でそれぞれ32本に分離された合計96本の波長パスは、波長変換器14bおよび光マトリクススイッチ15bから構成されるルーティング処理部12bに inputs され、必要な波長変換およびルーティング処理が行われる。光マトリクススイッチ15bの出力は、合波器13-4〜13-7でそれぞれ波長パスが合波され、出力ポートから光ファイバ16-3、16'-5〜16'-7に出力される。光ファイバ16-3には最大128本の波長パスが出力され、光ファイバ16'-5、16'-6にはそれぞれ32本（合計64本）の波長パスが出力され、光ファイバ16'-7には受信部に32本の波長パスが出力される。

【0063】また、分波器11-4〜11-7で分離される監視信号チャンネルの波長パスはコントローラ18bに inputs される。コントローラ18bは、この監視信号チャンネルにより伝送された制御情報に応じて、各波長変換

器14bの変換波長および光マトリクススイッチ15bの動作を制御する。また、コントローラ18bは、各波長群パスの新たな制御情報をのせた監視信号チャネルを生成し、合波器13-4~13-7に投入して合波する。

【0064】本構成の波長変換器14a、14bには、図11~図13の各波長変換器を用いることができる。本構成の光マトリクススイッチ15a、15bには、図8に示す光マトリクススイッチを用いることができる。本構成の送受信部17には、図9に示す送受信部を用いることができる。

【0065】なお、本実施形態に示すルーティング処理部12aは、波長変換器14aで各波長群パスを波長変換した後に光マトリクススイッチ15aに投入する構成をとっているが、各波長群パスを光マトリクススイッチ15aでスイッチングし、出力される波長群パスを波長変換器14aでそれぞれ波長変換する構成としてもよい。また、本実施形態に示すルーティング処理部12bは、波長変換器14bで各波長パスを波長変換した後に光マトリクススイッチ15bに投入する構成をとっているが、各波長パスを光マトリクススイッチ15bでスイッチングし、出力される波長パスを波長変換器14bでそれぞれ波長変換する構成としてもよい。

【0066】このように、ネットワーク構成を2階層化するに伴い、光パスクロスコネクタ装置の構成も2階層化することにより、各ネットワークに対応する制御機能を分離し独立性を確保すると同時に、地域網内から発信される同一対地へのトラヒックを集約することにより、基幹網内の波長群パス利用効率を高めることができ、光通信網全体のスループットを高めることができる。

【0067】また、送受信部17に接続されるIPルータが、同一の光パスクロスコネクタ装置10に配備されるのではなく、例えば同一の建物内にある別の場所に分散して配備される場合には、送受信部17に代えて基幹網対応部73および地域網対応部74と同様の構成のものを用い、3階層構造とする。

【0068】

【発明の効果】以上説明したように、本発明の光通信網および光パスクロスコネクタ装置は、複数の波長パスをグループ化した波長群パスを単位としてルーティング処理を行うことにより、ルーティング処理能力を大幅に引き上げることができる。その結果、1波長パスあたりの伝送コストを大幅に削減することができる。

【0069】図17は、図5に示す4×9の格子状の光通信網において、光パスクロスコネクタ装置のポート数と波長パス需要の関係を示す。従来構成はG=1であり、本発明構成はG=4、8、16（波長群パスを構成する波長パス数）である。例えば、波長パス需要2000本の場合、従来の各波長パス単位のルーティング処理に対し

て、本発明は波長群パス単位のルーティング処理により光パスクロスコネクタ装置のポート数を約半分に削減することができる。

【0070】なお、4本の波長パスで波長群パスを構成した場合には、光パスクロスコネクタ装置のポート数は従来構成に比べて理想的には1/4にまで削減されるはずであるが、現実には十分な波長パス需要がないときに波長群パスの利用率が低下し、理想値まで削減効果は得にくい。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の光パスクロスコネクタ装置の基本構成を示すブロック図。

【図2】光パスクロスコネクタ装置の従来構成と本発明構成の違いを説明する図。

【図3】波長群パスの波長配置例を示す図。

【図4】図3(3)の波長配置に対応する分波器11の構成例を示すブロック図。

【図5】本発明の光通信網の第1の実施形態を示すブロック図。

【図6】光通信網の従来構成と本発明構成の違いを説明する図。

【図7】波長多重伝送リンク20の構成例を示すブロック図。

【図8】図5のA地点に用いられる光パスクロスコネクタ装置10の構成例を示すブロック図。

【図9】送受信部17の構成例を示すブロック図。

【図10】光マトリクススイッチ15の構成例を示すブロック図。

【図11】波長変換器14の第1の構成例を示すブロック図。

【図12】波長変換器14の第2の構成例を示すブロック図。

【図13】波長変換器14の第3の構成例を示すブロック図。

【図14】光分散媒質53、56と2次の光非線形媒質54、55の構成例を示す図。

【図15】本発明の光通信網の第2の実施形態を示すブロック図。

【図16】図15のB地点に用いられる光パスクロスコネクタ装置10の構成例を示すブロック図。

【図17】光パスクロスコネクタ装置のポート数と波長パス需要の関係を示す図。

【符号の説明】

10 光パスクロスコネクタ装置

11 分波器

12 ルーティング処理部

13 合波器

14 波長変換器

15 光マトリクススイッチ

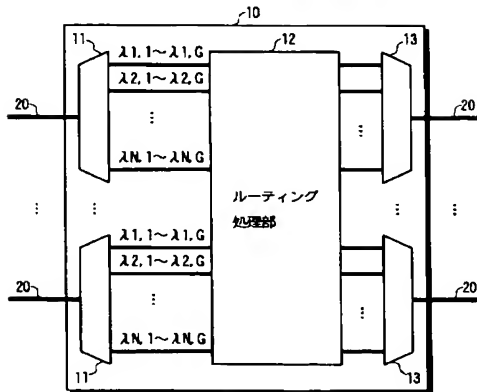
16 光ファイバ

17

- 17 送受信部
- 18 コントローラ
- 20 波長多重伝送リンク
- 21 コア拡大ファイバ
- 22 分散補償ファイバ
- 23 光ファイバ増幅器
- 31 電気光変換器 (E/O)
- 32, 36 クロスバスイッチ
- 33 合波器
- 34 分波器
- 35 光電気変換器 (O/E)
- 40 反射鏡スイッチ
- 41 分波器
- 42 波長可変レーザ光源
- 43, 45 波長変換素子
- 44 合波器

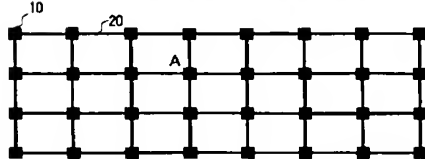
【図 1】

本発明の光バスクロスコネクタ装置の基本構成



【図 5】

本発明の光通信網の第 1 の実施形態



18

- 46 半導体光増幅器
- 47 光カプラ
- 51 WDMカプラ
- 52, 57 光合分波器
- 53, 56 光分散媒質
- 54, 55 2次の光非線形媒質
- 60 LiNbO₃ 基板
- 61, 62 非疑似位相整合 LiNbO₃ 導波路
- 63, 64 疑似位相整合 LiNbO₃ 導波路
- 71 基幹網
- 72 地域網
- 73 基幹網対応部
- 74 地域網対応部
- 111 光スターカプラ
- 112, 114 AWG
- 113 光ゲートスイッチ群

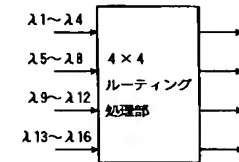
【図 2】

光バスクロスコネクタ装置の従来構成と本発明構成の違い

(1) 従来構成

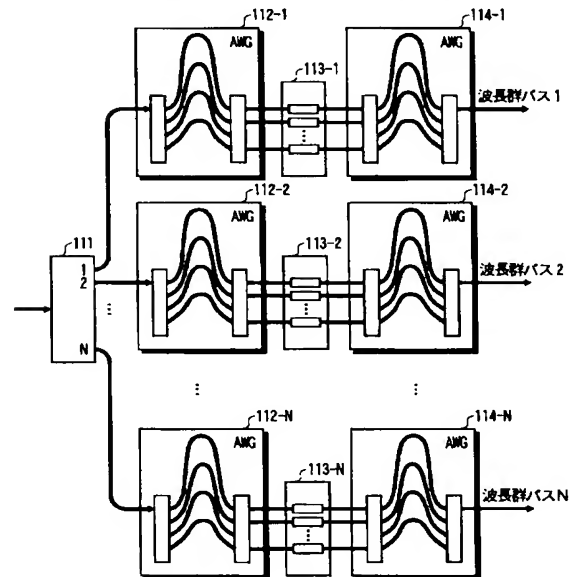


(2) 本発明構成

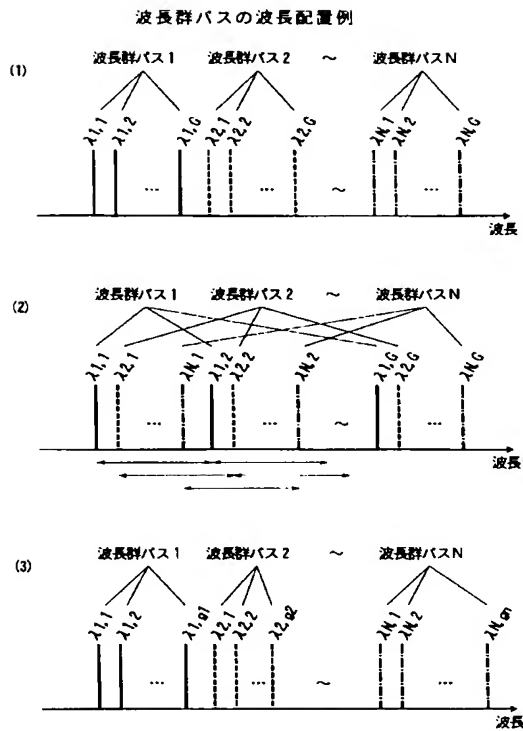


【図 4】

図 3 (3) の波長配置に対応する分波器 11 の構成例

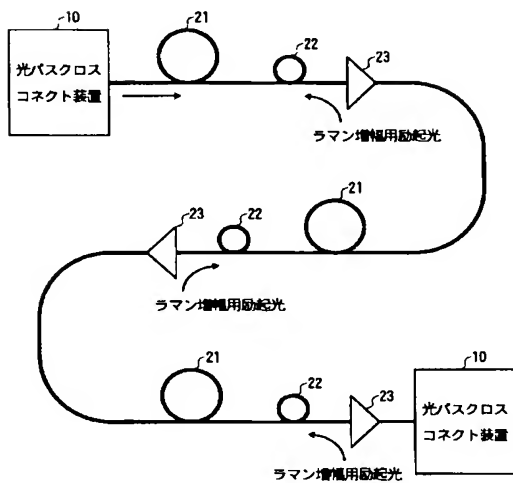


【図3】



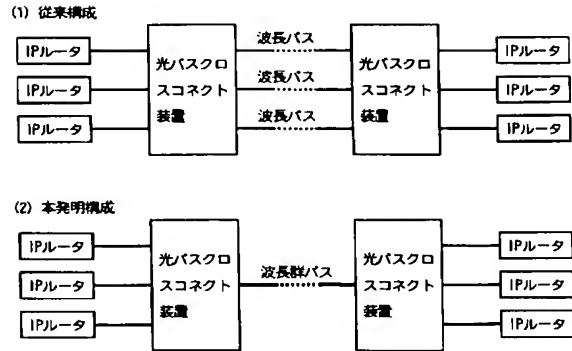
【図7】

波長多重伝送リンク20の構成例



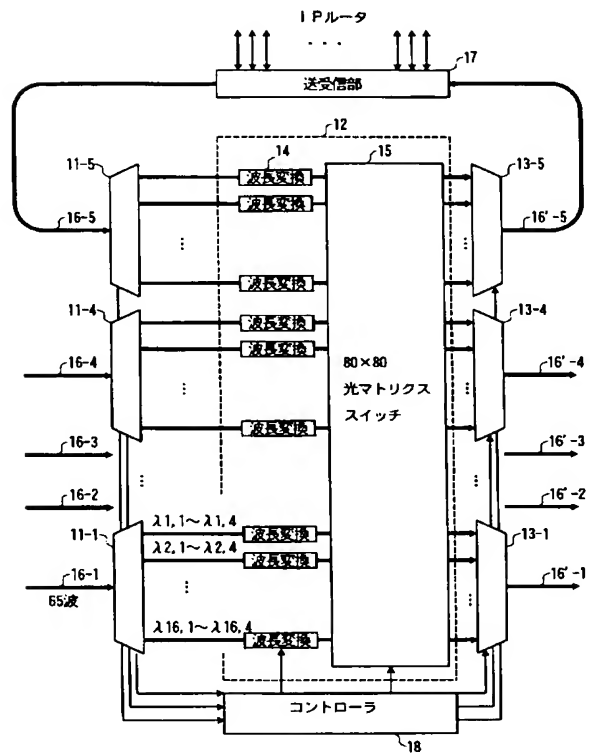
【図6】

光通信網の従来構成と本発明構成の違い



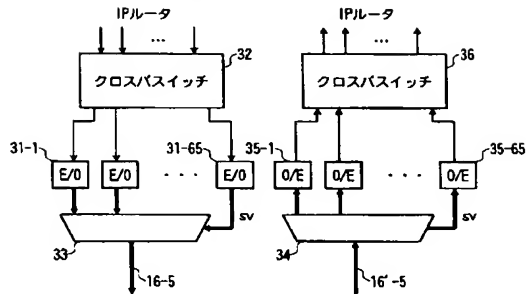
【図8】

図5のA地点に用いられる光バスクロスコネクタ装置10の構成例



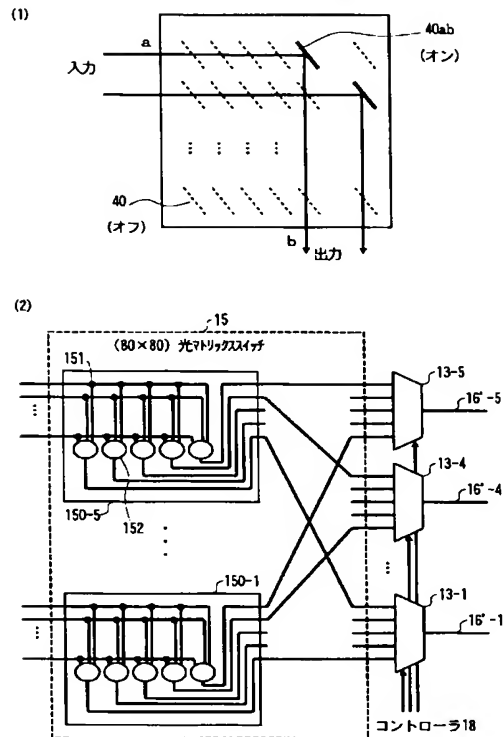
【図9】

送受信部17の構成例



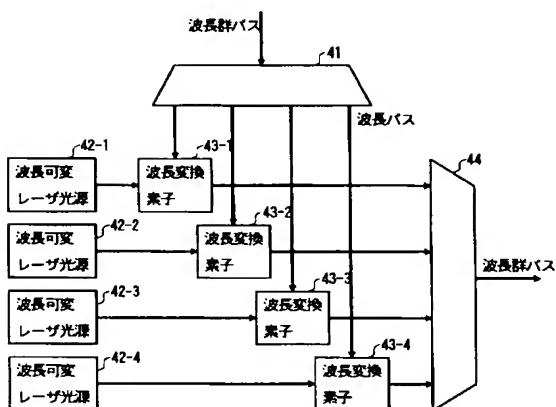
【図10】

光マトリクススイッチ15の構成例



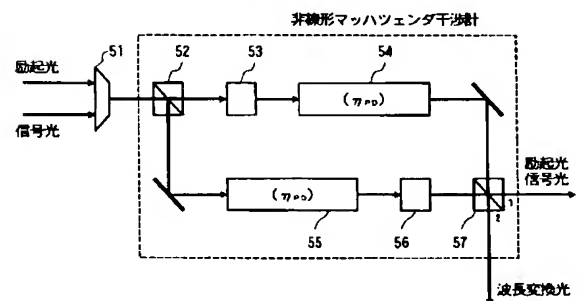
【図11】

波長変換器14の第1の構成例



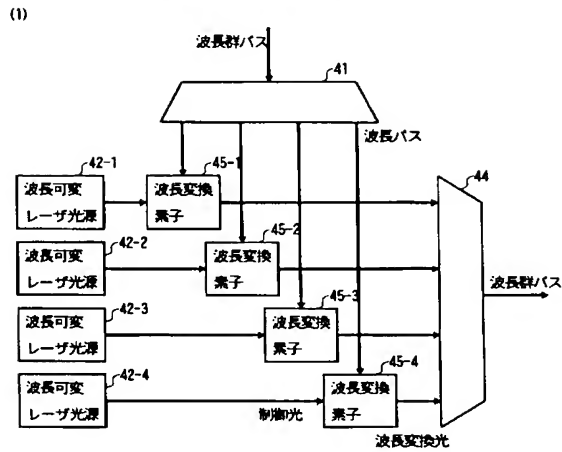
【図13】

波長変換器14の第3の構成例

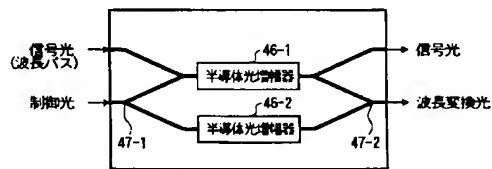


【図12】

波長変換器14の第2の構成例

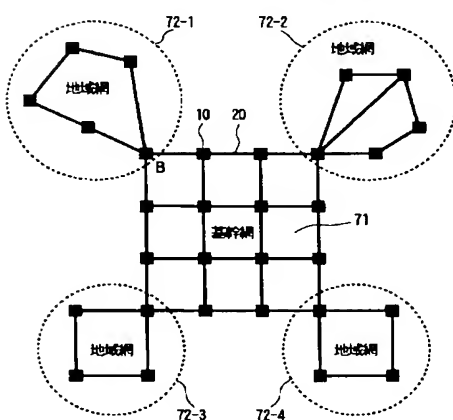


(2) 波長変換素子45の構成例



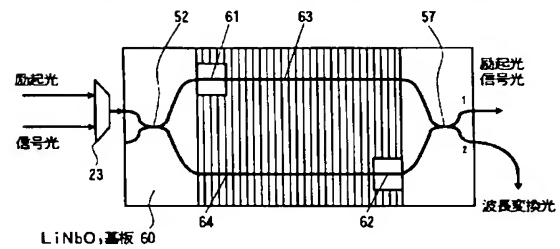
【図15】

本発明の光通信網の第2の実施形態



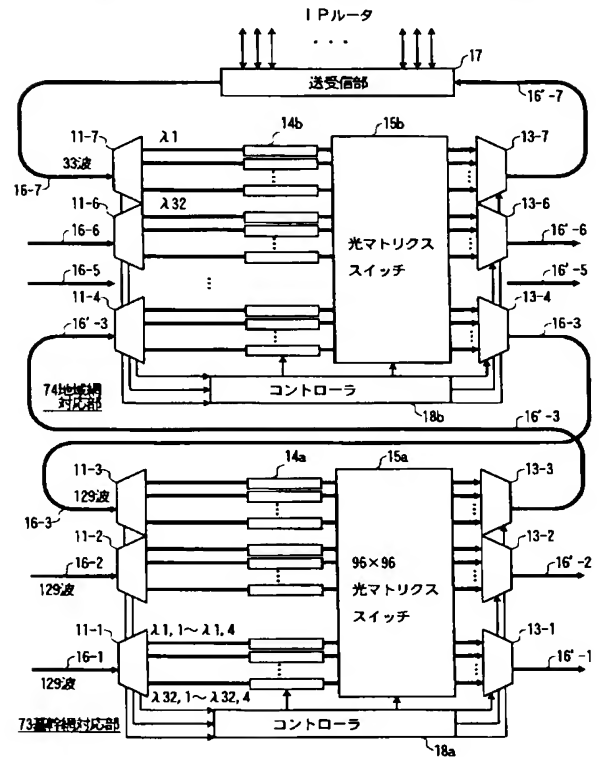
【図14】

光分散媒質53, 56と2次の光非線形媒質54, 55の構成例



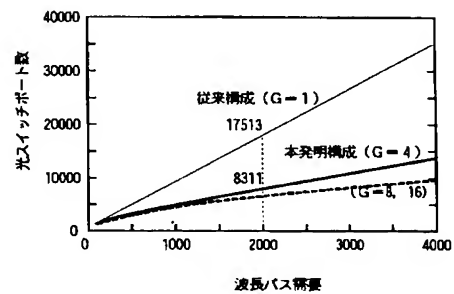
【図16】

図15のB地点に用いられる光バスクロスコネクタ装置10の構成例



【図 17】

光バスクロスコネクタ装置のポート数と波長バス需要の関係



フロントページの続き

(72) 発明者 高田 篤

東京都千代田区大手町二丁目 3 番 1 号 日
本電信電話株式会社内

F ターム(参考) SK002 BA05 BA06 CA02 DA02 DA13
SK069 AA13 BA09 CB10 DB33 EA24
EA25 EA26 FA26